

1959年3月…『大宮公園サッカー場』は、**日本初**のサッカー専用球技場として、ここ**大宮**で産声をあげました。生まれたばかりのサッカー場は、湿地を埋め立て、芝を植えた「どうやらサッカーができる程度のグラウンド」だったそうです。その後1964年**東京オリンピック**、1967年**埼玉国体**と、サッカーの大舞台となるたびに専用球技場として成長していきました。そして1979年**ワールドユースサッカー大会**には、後に全世界にその名を轟かす**スーパースター**がやってきました。その人こそ**ディエゴ・マラドーナ**です。**大宮**で世界デビューを果たしたマラドーナは**世界の頂点**へと登りつめていったのです。その他にも皇帝**フランツ・ベッケンバウアー**が、ニューヨークコスモスの一員として訪れております。新しいところでは2002年ワールドカップの際、当時のブラジル代表の練習会場となり、**ロナウジーニョ**、**カカ**、**ロナウド**といった、そうそうたる選手が大宮公園サッカー場のピッチを踏みました。現在でもメインスタンド下の一室の壁に彼らのサインが残されています。また1973年から1991年までの間に**日本代表Aマッチ**が全12試合開催されています。そんな華々しい歴史と伝統を刻む『大宮公園サッカー場』は、まさにサッカーの『**聖地**』と呼ぶにふさわしい場所であるのです。



ア・2005年ごろの大宮公園サッカー場
シンプルな得点掲示板が懐かしい

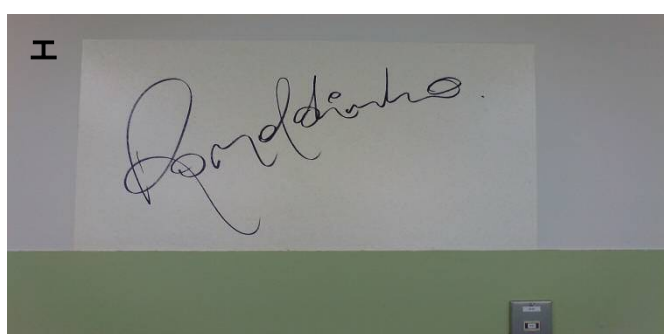
イ・2005年ごろの正面玄関



ウ・2005年ごろのメインスタンド



エ・メインスタンド下の一室の壁に書かれたロナウジーニョのサイン



1996年、**大宮アルディージャ**の前身であるNTT関東サッカー部のホームスタジアムとなり、新たな歴史が『大宮公園サッカー場』に刻まれます。このサッカーの『**聖地**』は、**大宮アルディージャ**のJFL・J2・J1と駆け上がってきた闘いの舞台となり、2006年の改修工事後『NACK5スタジアム大宮』と名を改め、現在に至ります。

この由緒正しいサッカーの『**聖地**』…。1度だけ**存続の危機**がありました。2000年埼玉スタジアム竣工により、埼玉県は『大宮公園サッカー場』の廃止を決定したのです。しかし、この場所で大宮のサッカー文化を体感してきた多くの市民の方が、埼玉県から大宮市（当時）に管理移管を求め、署名活動に賛同しました。集まった署名は実に**12万1139**筆にも及んだということです。（※現さいたま市サッカー協会理事長談）この事実が意味するところは何か。サッカーに触れる機会が多い**大宮アルディージャ**のファン・サポーターにだけでなく、普段はサッカーに触れることの少ない市民の方の心にも『大宮公園サッカー場』は、大宮公園の一面になくてはならない存在であったということではないでしょうか。

また、『NACK5スタジアム大宮』へと生まれ変わる過程で、地域住民の方々への説明会が開催されました。当時説明会を主催したさいたま市の職員はこう語ります。「確かに巨大な施設ができることに対する不安や心配も多く聞かれた。でも、その一方で『これだけ歴史と伝統のあるサッカー場なのだからいい加減なものを造ってほしくない。しっかりとしたものを造ってほしい』とエールにも似た言葉もいただいた」と。やはり『大宮公園サッカー場』は地元の方々にも愛されているのだと確信したそうです。

あるサポーター氏の話。時は**東京オリンピック**まで遡ります。氏はサッカーに興味すら無かった幼少の頃、親御さんに手を引かれ『大宮公園サッカー場』に試合観戦に訪れたそうです。「試合のことは全く憶えていないけれども、ピッチの**眩しいほどの緑**と風によって流れる**刈られた芝の匂い**は、今でも忘れない」と。

大宮図書館サッカーコーナーでは、『大宮公園サッカー場』から『NACK5スタジアム大宮』へと生まれ変わる軌跡を展示します。**大宮**でのサッカー文化の隆盛と地域の益々の発展を願って、**未来へと…**。



カ・大宮公園の全景（撮影：(株)エスエス東京）

NACK5スタジアムの他、野球場、競輪場、ボート池、水泳場、博物館、そして、氷川神社。また氷川の柱に覆われた動物園、児童遊園。

参考文献：『輝く埼玉サッカー75年の歩み』（埼玉県サッカー協会編）：『太陽と空、迫力溢れるサッカーの聖地 NACK5スタジアム大宮』（さいたま市公園緑地協会）：『さいたま市大宮公園サッカー場 STORY さいたま市大宮公園サッカー場メモリアル』（大宮アルディージャ）

オ・完成直後の北面からの航空写真（撮影：(株)エスエス東京）
※全ての航空写真は、戸田建設（株）様より御提供いただきました。



カ

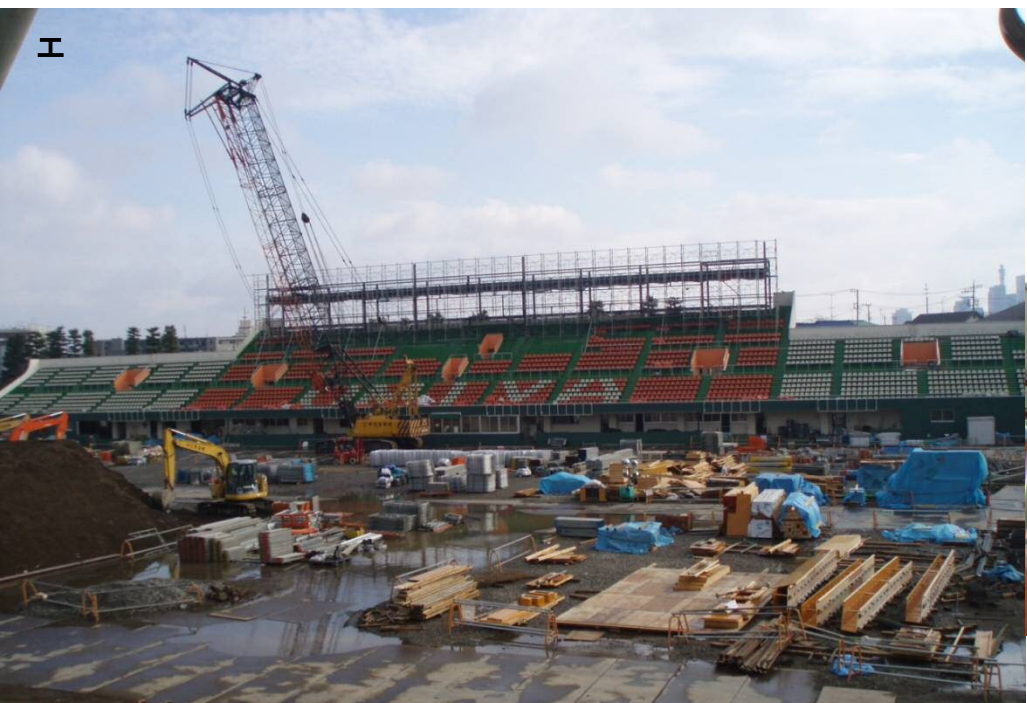
メインスタンド編！



①改修前の『大宮公園サッカー場』 かなり歴史を感じる佇まい。

ア・2005年11月23日 ガンバ大阪戦前の様子。この試合が『大宮公園サッカー場』としての最後の試合だった。

イ・最終戦の掲示板のメッセージ ウ・バックスタンドからメインを臨む



- ②エ ・展望室が解体され、増設。屋根掛けのための足場が組み出されました
- オ ・足場はさらに高さを増していきます。
- カ ・別角度からの展望室骨組みと足場の様子。
- キ ・真横から見たメインスタンドの改修の様子。屋根を支える白い鉄柱が見える（2007・2～2007・3 ごろ）

メインスタンド編II



- ③ ア・屋根の骨組みが完成。
イ・足場内部の骨組みが複雑化しているのがわかる。白い屋根も掛けられた。
ウ・白い屋根を下から臨む。
エ・足場の解体が進むにつれ展望室が明らかに。
オ・ほぼ完成。芝も緑増す。
(2007・3～2007・7 ごろ)



- ④カ・「聖地」NACK5スタジアムの白い天守閣とも言えるメインスタンドの完成。
期せずして空が神々しく輝く。(2007.10 ごろ)

ホームゴール裏編！

ア



イ



ウ



エ



- ①ア・ホームゴール裏の満開の桜（2005・4）
（高校サッカー開催中）
イ・応援席はむき出しのコンクリートのみの簡素な造り（2004・4）
夏場はすごく暑かった
ウ・応援席からピッチを臨む臨場感あふれる眺め（2004.4.3 鳥栖戦 前半終了 0-0）
エ・ホームゴール裏 生垣の間を抜けると桜の木とトイレがあった。（2004.4.3）



ア



イ



ウ



エ



- ②ア・解体寸前のスタンド（2006・3）
イ・コンクリートの階段席も引きはがされる（2006・3）
ウ・右上の写真より約半月後 桜が最後の開花 静かにその時を待つ（2006・4 初旬）
エ・写真中央に伐採されたイチョウ（2006・4 中旬）
※桜とイチョウがどうなったかは後ほど特集します

ホームゴール裏編II



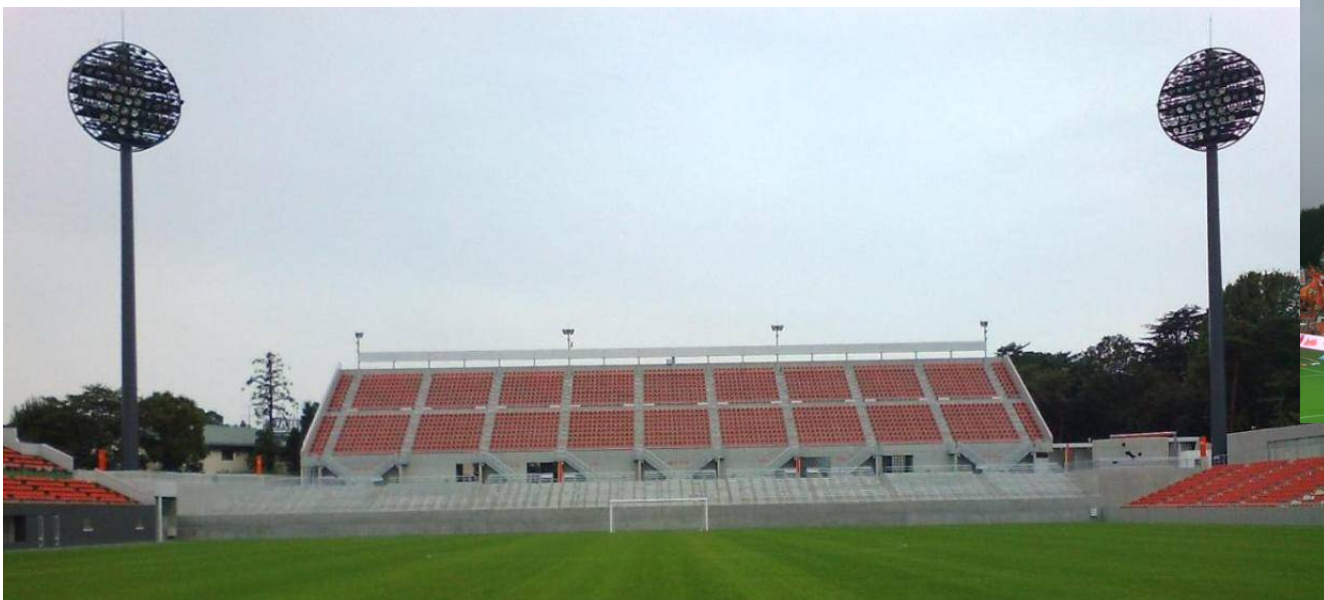
③写真ア～ケ 2007・2～2007・6 ホームゴール裏スタンドの全貌が明らかになっていく

ア・基礎工事の段階から改修前のスタンドの大きさをしのぐ

オ・メインスタンド上部（おそらく屋根）から見下ろす

ク・スタンド中段に掲げられたスローガン「我々は**最高の建物**と**最高のフィールド**を提供します」建設にたずさわった方々の熱い想いが伝わる

ケ・改修前とは比べ物にならないほど巨大なスタンドがほぼ完成



④今後NACK5スタジアムで繰り広げられる熱い闘いを見守り続けるホームゴール裏スタンドの完成（2007・10下旬）

1階の立ち見席は日本一狭い 一列ごとの奥行きは625mm（日立台柏サッカー場は700mm）

2階席は2,500席

大宮アルディージャサポーターも熱く燃える



バックスタンド編



ア：2006.4 ごろのバックスタンド 松かぶりスタンドだった。
奥の方に印象的なレリーフが見える。



イ：松は静かに伐採の時を待つ。(2006.8 ごろ)
取り壊されたホームゴール裏スタンドからの眺め。



ウ：イの写真から半年過ぎた 2007.2 ごろのバックスタンド
既に松はなく、基礎工事が進んでいた。



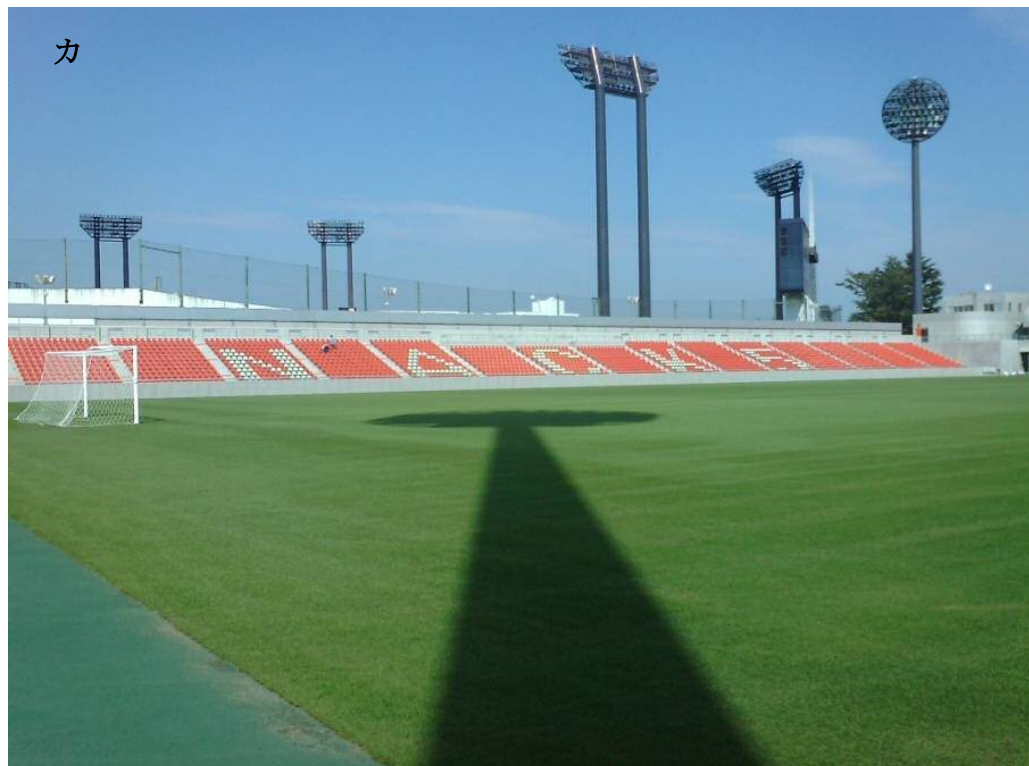
エ：階段状にコンクリートで固められていく。(2007.4 ごろ)



オ：ピッチの整地も進む。
(2007.6 ごろ)



カ：緑のキャンパスに照明灯の影が描かれる。(2007.10 ごろ)



キ：素晴らしいコントラストを描いてバックスタンドが完成。(2007.10 ごろ)



バックスタンド編 外伝



①ア：ある日のバックスタンドの風景（2005・6 ユースチームの試合か？）

イ：左上の写真内の点線内を拡大したもの

※よく見るとサッカー場の外通路から覗いている人影が確認できる

ウ：外通路からサッカー場をのぞく（2006・3）

公園内の散策、氷川様へのお参り、博物館見学などその目的はそれぞれであったけれど、ここを通ればおのずとピッチの色鮮やかな緑が垣間見ることができた。

「大宮公園サッカー場」の残像が、市民の心に今もなお色濃く残る理由がここにあるようだ。



②ア：この写真の場所を御存知でしょうか？

イ：この隙間は、設計者によって意図的にあけられたものです。（さいたま市元設備課職員談）

ウ：のぞき込むと「大宮公園サッカー場」と変わることはない色鮮やかで美しい芝の緑が目飛び込んできます。生まれ変わったスタンドの大きさも体感することができるでしょう。「大宮公園サッカー場」の歴史と伝統に培われた不変の魅力が今も守られていることを感じられると同時に、未来の「NACK5スタジアム大宮」のあるべき姿も感じられる場所なのではないでしょうか。



NACK5スタジアム大宮 外伝1



① 過去の画像で振り返ってみると、「大宮公園サッカー場」は多くの樹木に囲まれていたことがわかります。桜・松・イチョウ・杉等が、四季折々サッカー場を彩りました。
さて、「ホームゴール裏編」で触れた伐採された桜やイチョウはどうなったのか？実は「大宮公園サッカー場」の豊かな自然は「NACK5スタジアム大宮」でも守られていました。

ア：2004.9 ごろ
イ：2004.12 ごろ
ウ：2005.4 ごろ
エ：2005.11 ごろ



② 伐採された桜やイチョウは1ゲートへアクセスする通路と階段に再現されていました。
ア：2012.4 ごろ
イ：2007.10 ごろ



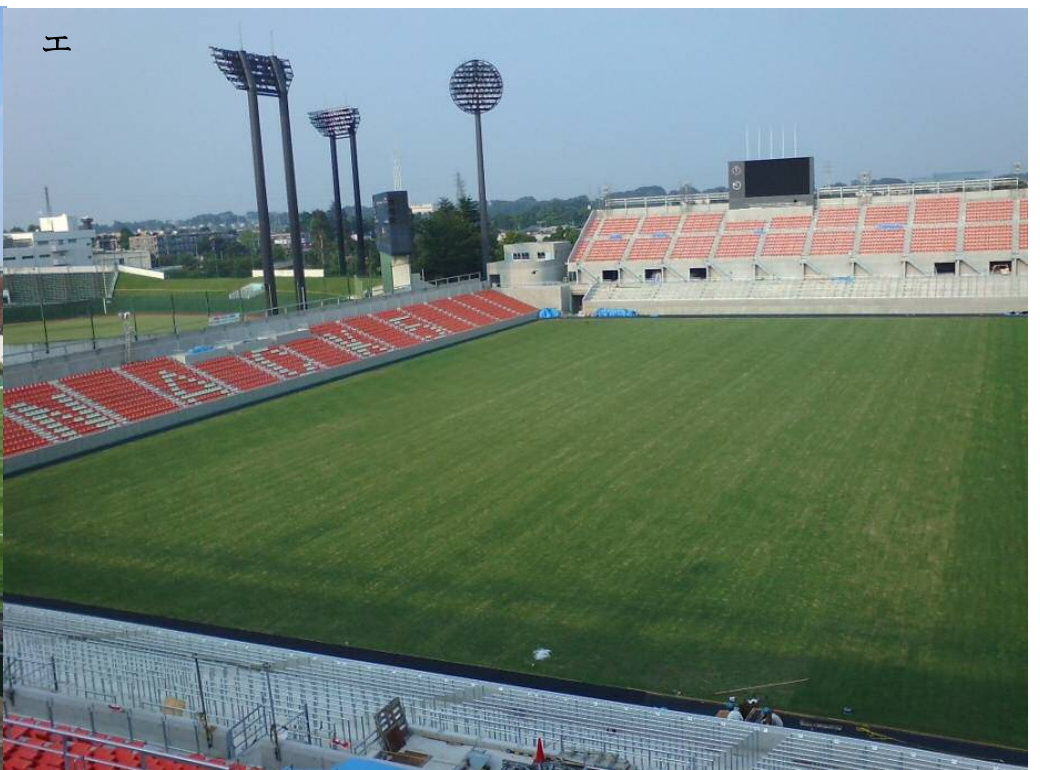
② メインスタンドに架る大屋根を後方の玄関側から撮影した画像です。(ウ：2007.9 ごろ エ・オ：2007.10 ごろ) このように大規模な独立懸架方式の大屋根は、2007年当時国内サッカースタジアムでは類のないものでした。そしてその大屋根を支える支柱は、「大宮公園サッカー場」をつつみこんだ氷川の杜、天へと生き生きと伸びる木々をモチーフにしたデザインとなっています。
「NACK5スタジアム大宮」は、「大宮公園サッカー場」の歴史と伝統のみならず、その魅力も受け継いだスタジアムであるのです。

NACK5スタジアム大宮 外伝II

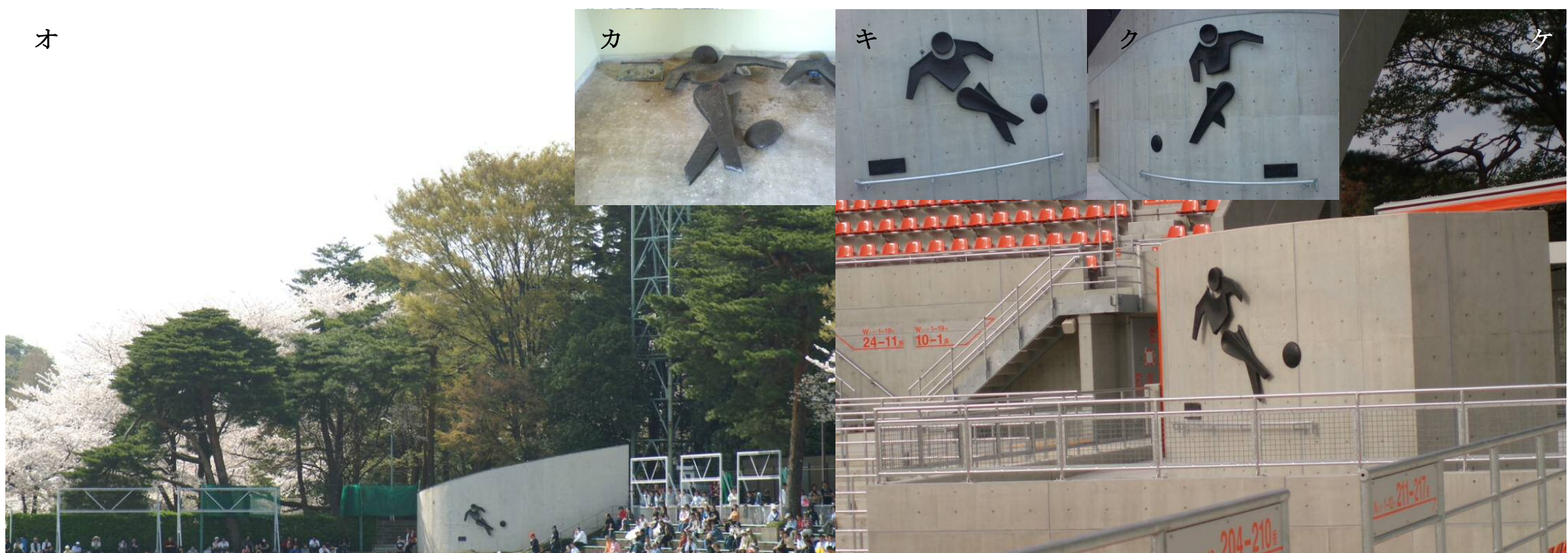
- ① 改修工事後、最も変化したのが得点掲示板ではないでしょうか。「NACK5スタジアム大宮」では大型映像機が設置されました。矢印の円内は「大宮公園サッカー場」時代の紙で貼り出されたメンバー表です。とても懐かしい光景です。ちなみに試合は大宮VS仙台 後半19分1-0で大宮がリードしています。(ア：2004.4.14 イ：2007.11ごろ)



- ② 照明塔も大きく変わりました。四角から丸へ。なぜ丸なのか。OMIYAの「O」を形取りました。(さいたま市元設備課職員談) また高さも増しました。ウの写真(2005.11ごろ)で野球場の照明塔の高さと比較してみてください。サッカー場の照明塔がやや後方にあることを差し引いてもかなり低かったことがわかります。エの写真(2007.11ごろ)では、ほぼ同じ高さに改修されています。



- ③ 「大宮公園サッカー場」といえば、ホームとアウェイの両サイド(ゴール裏席とバックスタンド席の間)のコーナーにあったサッカー選手のレリーフを思い出す方も多いと思います。「NACK5スタジアム大宮」でも同じ場所に設置されました。しかも「大宮公園サッカー場」にあったものを保存し、そのまま取り付けられています。(オ：2005.4ごろ カ：2006.10ごろ 取り外され保管されたレリーフ キ：2007.10ごろ 再び取り付けられたホーム側レリーフ ク：アウェイ側レリーフ ケ：2007.10ごろ)



NACK5スタジアム大宮 外伝Ⅲ



① サッカー場と野球場の間の通路、ちょうど野球場のスコアボードの下辺りの様子です。アの写真（改修前 2005.11 ごろ）蔓性の植物が生い茂っている。イの写真（改修直後 2007.10 ごろ）蔓性の植物はなく桜が植栽されました。ウの写真（改修後 4年半経過 2012.4 ごろ）蔓性の植物が再び茂りだしました。桜も無事に育ってきれいな花を咲かせています。この蔓性の植物は大宮アルディージャのあるサポーター氏が、「大宮公園サッカー場」の風景を残そうと植栽していったそうです。またそのサポーター氏はスタジアム周辺の花壇にオレンジ色の花を寄贈・植栽していくとのことでした。こうしたエピソードは、「NACK5スタジアム大宮」が「大宮公園サッカー場」の歴史と伝統を受け継ぐものとしてこの地域に根付きだした証拠なのではないでしょうか。



② エの写真（2007.5 ごろ）工事期間中、作業員の方々はこんな横断幕を掲げ、スタジアム建設に力を注いでいました。

「我々は12人目の**フィールド戦士**だ!!」 こうした思いは今もスタジアムに刻まれています

オの写真（2007.11 ごろ）ホームゴール裏スタンド下の12本の梁がオレンジとネイビーに彩られました。そして1本1本の梁に番号が打たれメッセージが込められました。

1: Football, it is really wonderful sport. Because it is a sport which raises a child as an adult and raises an adult as a gentlemen.

サッカー、それは本当に素晴らしい競技だ。なぜなら、子どもを大人に、大人を紳士に育て上げる競技だから。（デットマール・クラマー）

2: Live in Omiya, Live with Omiya. 3: Football is the opera of the people. 4: It's our paradise the Omiya park soccer stadium.
大宮に住み、大宮と共に生きる。 サッカーは民衆のオペラである。 大宮公園サッカー場は俺達の楽園だ。

5: Some people say soccer's a matter of life or death, but it isn't. It's much more important than that.

サッカーは生きるか死ぬかという問題ではない、それよりはるかに厳しいものである。（ビル・シャンクリー：元リバプール監督）

6: Omiya's great journey has started at this stadium. 7: Football is made up of mistakes, because a perfect match is 0-0.

大宮の偉大な旅は、このスタジアムで始まった。 サッカーはミスのスポーツ、プレイヤーが完璧なプレイをしたら点は入らない（プラティニ）

8: Enjoy Football!! Enjoy OMIYA PARK LIFE!! 9: Soccer is simple, but it is difficult to play simple.

サッカーはシンプルだ、しかしシンプルにプレイすることは難しい。（クライフ）

10: We will go with Omiya no matter what. 11: You have got to shoot, otherwise you can't score. 12: We are all the 12th player.

何があろうと大宮と共に歩いて行く。 シュートを撃て、さもなければ点は入らない。（クライフ） 俺達は12番目の選手だ。

大変な駆け足で「大宮公園サッカー場」から「NACK5スタジアム大宮」への変遷をご紹介してまいりました。大きく変わったところ、変わらずに残されたところ。歴史と伝統を受け継いだスタジアムは、新たな日々を積み重ねながら人や地域社会を**未来へ**と誘うことでしょう。

最後にこの展示を実施するにあたり、画像提供いただいた戸田建設（株）様、さいたま市元設備課職員様、サポーター夫妻様、取材に応じてくださったさいたま市サッカー協会理事長様、サポーター氏様に感謝申し上げます。